

エアゾール缶等による火災・事故をなくそう

エアゾール缶等に関わる火災及び事故の発生状況

エアゾール缶及び簡易型ガスこんろ燃料ボンベ（以下「エアゾール缶等」という。）による火災は過去 10 年間で 1,618 件発生しています。平成 21 年に 207 件の最多件数を記録しましたが、平成 22 年から年々減少し、平成 24 年からは、ほぼ横ばいで推移しています（図 1）。

平成 26 年中のエアゾール缶等により火災に至った主な原因で最も多いのは、最後まで中身を使い切らずに捨てられたエアゾール缶等の残存ガスが、清掃車の荷箱内で噴出し、ごみの圧縮時発生した火花に引火して火災となるもので 45 件発生しており、過去 10 年間で 926 件となります（表 1）。

また、過去 10 年間の火災による死傷者は 568 人で、死者が 4 人、負傷者が 564 人発生しています。このうち中等症（生命の危険はないが入院を要するもの）以上のけがを負った人（死亡を除く。）が 4 割以上を占め、顔や気道などにやけどを負っています（表 2、表 3）。

一方、エアゾール缶等による事故※は過去 9 年間で 178 件発生しています。平成 26 年は前年に比べ 2 件増加の 12 件となりました。過去 9 年間でみると、事故に至った原因で最も多いのは、廃棄するためにエアゾール缶等に穴をあけた際に噴出した残存ガスに、近くにあったガスコンロ等の炎が引火してやけどを負うなどの事案で、53 件発生しています（表 4）。

（※「事故」とは、火災に至らず、やけど等のケガを負ったものです。）



図 1 エアゾール缶等による火災発生件数の推移（過去 10 年間）

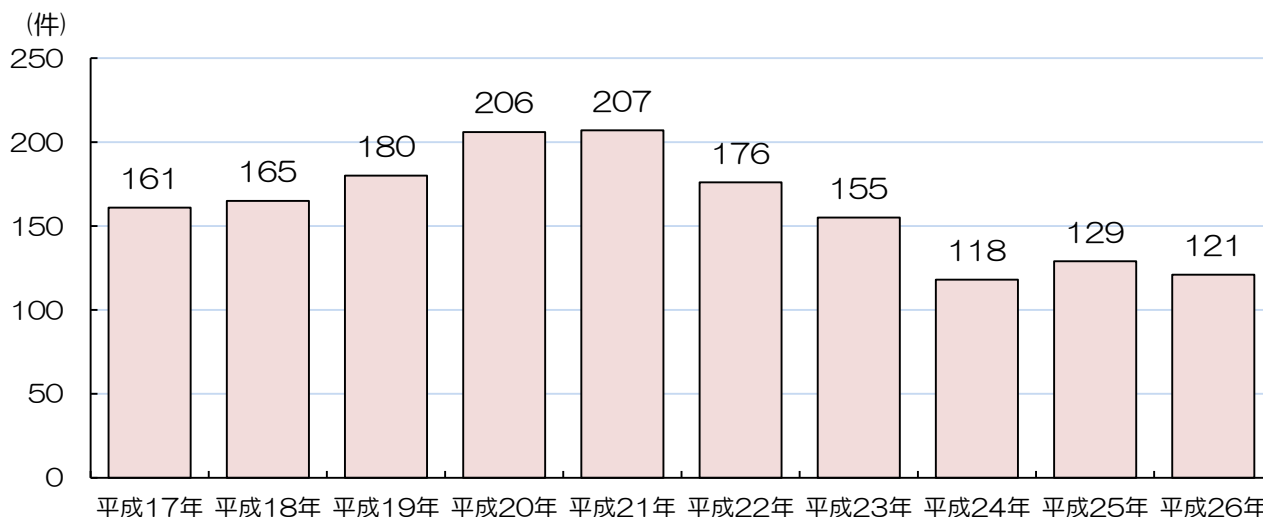


表1 エアゾール缶等による過去10年間の火災発生状況

火災発生要因	平成 17年	平成 18年	平成 19年	平成 20年	平成 21年	平成 22年	平成 23年	平成 24年	平成 25年	平成 26年	合計
清掃車	104	113	119	134	127	104	77	52	51	45	926
穴あけ	13	14	17	26	21	23	23	26	30	29	222
その他（廃棄）	4	3	2	6	13	15	11	6	8	3	71
厨房器具近接	19	13	9	8	16	6	3	7	8	10	99
暖房器具近接	5	6	7	9	5	6	7	6	7	5	63
装着不良	1	1	1	5	3	3	9	4	7	8	42
その他 （取扱不適含む）	15	15	25	18	22	19	25	17	18	21	195
合計	161	165	180	206	207	176	155	118	129	121	1,618

表2 エアゾール缶等による火災の死傷者発生状況（過去10年間）

年 別	火 災 件 数 （ 件 ）	負 傷 者 数 （人）					死 亡	中 等 症 以 上 （ 人 ）	中 等 症 以 上 の 割 合 （ ％ ）
		合 計	軽 症	中 等 症	重 症	重 篤			
平成17年	161	51	30	15	5	1	2	21	41.2
平成18年	165	39	22	14	3	-	-	17	43.6
平成19年	180	65	38	18	9	-	-	27	41.5
平成20年	206	74	46	20	6	2	1	28	37.8
平成21年	207	53	32	15	5	1	-	21	39.6
平成22年	176	64	38	19	6	1	-	26	40.6
平成23年	155	62	38	14	9	1	-	24	38.7
平成24年	118	41	17	16	8	-	-	24	58.5
平成25年	129	55	29	17	6	3	-	26	47.3
平成26年	121	60	31	21	7	1	1	29	48.3
合計	1,618	564	321	169	64	10	4	243	43.1

軽 症・・・軽易で入院を要しないもの
 中等症・・・生命の危険はないが入院を要するもの
 重 症・・・生命の危険が強いと認められたもの
 重 篤・・・生命の危険が切迫しているもの

表3 エアゾール缶等による火災の受傷部位別負傷者数（過去10年間合計）

受傷部位	熱 （火） 傷	気 道 炎	挫 傷 （創）	切 創	打 撲 傷	一 酸 化 炭 素 中 毒	擦 過 傷 （創）	咽 喉 炎	骨 折	そ の 他	合 計
顔部	181	-	2	2	-	-	-	-	-	3	188
気道	68	11	-	-	-	-	-	2	-	6	87
手部（手のひら）	60	-	3	6	1	-	3	-	-	1	74
前腕部（肘から先）	60	-	-	-	-	-	-	-	-	1	61
全身	26	-	-	-	-	4	-	-	-	4	34
上腕部（肘から上）	26	-	-	-	1	-	-	-	-	-	27
上半身	25	-	-	-	-	-	-	-	-	-	25
頭部	12	-	-	-	2	-	-	-	-	2	16
下腿部（膝から足首）	10	-	3	-	-	-	-	-	1	-	14
その他	30	-	3	2	1	-	-	-	1	1	38
合計	498	11	11	10	5	4	3	2	2	18	564

表4 過去9年間のエアゾール缶等による主な原因別事故件数

主な原因	平成 17年	平成 18年	平成 19年	平成 20年	平成 21年	平成 22年	平成 23年	平成 24年	平成 25年	平成 26年	合計	割合(%)
清掃車		-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	0.0%
穴あけ		9	7	7	6	8	2	10	1	3	53	29.8%
その他(廃棄)		1	-	1	-	1	-	-	2	2	7	3.9%
厨房器具近接		4	5	6	2	1	3	2	3	1	27	15.2%
暖房器具近接		-	2	-	6	-	-	-	-	-	8	4.5%
装着不良		-	-	-	-	-	-	2	-	-	2	1.1%
その他 (取扱不適含む)		1	8	26	17	9	4	6	4	6	81	45.5%
事故合計(件)	-	15	22	40	31	19	9	20	10	12	178	100%

近年発生したエアゾール缶等に起因する火災・事件事例



- 事例1 (火災)** 石油ファンヒータの温風吹き出し口付近にエアゾール缶を置いていたため、エアゾール缶が過熱されて破裂し、噴出した可燃性ガスに石油ファンヒータの炎が引火し出火したもの。(建物部分焼)
(平成26年12月 50歳代女性 重篤、他にけが人3名)
- 事例2 (火災)** カセットこんろの燃料ポンベを交換する際、本体のガイド部と燃料ポンベの切り込み部が合っていないことに気付かず装着したため、燃料ガスが漏れ、点火時の火花でガスに引火し出火したもの。(建物部分焼)
(平成26年11月 60歳代男性 重症、他にけが人1名)
- 事例3 (火災)** 住宅台所のシンク内でエアゾール缶を廃棄するため、市販の穴開け器具を使用して穴を開けた際、エアゾール缶から噴出した可燃性ガスに調理中のガステーブルの炎が引火し出火したもの。(建物ぼや)
(平成26年6月 50歳代女性 軽症)
- 事例4 (事故)** 自宅台所でガスこんろを使用中にシンク部分でスプレー缶のガスを抜いていたところ、ガスこんろの火が引火し受傷したもの。
(平成26年2月 50歳代女性 中等症)
- 事例5 (事故)** 自宅台所で調理中のガス台近くにゴキブリが出たため、周囲にスプレー式の殺虫剤を数回噴射したところ、ガスこんろの火が引火し受傷したもの。
(平成26年6月 60歳代女性 軽症)
- 事例6 (事故)** 自宅1階台所で制汗スプレーを廃棄するため、千枚通しで穴をあけていたところ、噴出した残存ガスに使用中のガスこんろの火が引火し受傷したもの。
(平成26年9月 50歳代女性 軽症)

カセットボンベ・エアゾール缶の火災・事故を防ぐために

- ① エアゾール缶には、LPG などの可燃性ガスが噴射剤として使われている製品が多いので、使用前に必ず製品に記載されている注意書きを確認する。
(エアゾール製品は、本来の用途以外に使用しない。)
- ② やむを得ず使い切らずに捨てる時には、火気のない通気性の良い屋外で残存ガスがなくなるまで噴射し廃棄する。
- ③ エアゾール缶等を廃棄する場合は、必ず中身を使い切り、各区市町村が指定するごみの分別を守って捨てる。
- ④ エアゾール缶等は、厨房器具や暖房器具付近の高温となる場所や、直射日光と湿気を避けて保管し、厨房器具や暖房器具等の付近では使用しない。
- ⑤ カセットボンベは、カセットこんろ本体に正しく装着されていることを確認してから使用する。
- ⑥ カセットこんろを複数並べて鉄板をのせたり、カセットボンベカバーを覆うような大きな鍋等の使用や、練炭等の炭おこしは、燃料ボンベが過熱され、破裂する危険があるので絶対に行わない。